

Associé No.39 / 2024.09



勤続 20 年 30 年 表彰式



— 5 年ごとに、長く勤められた職員への感謝の意として勤続表彰しています —

2024 年度勤続表彰の式典が、社会福祉法人京都福祉サービス協会の設立の日にあたる 7 月 30 日に執り行われました。当日は理事長、理事が参列のもと、和やかに式典が進められました。協会は、設立 30 周年の節目を迎えており、今回、勤続 30 年表彰者も 3 名おられます。勤務のご都合等で出席はかないませんでしたが、この場をお借りし、これまで協会とともに歩まれ、ご活躍されてこられたことに心より感謝の意をお伝えしたいと思います。



協会では、7 月 1 日に発足した「2030 ビジョン構想プロジェクト」において、2030 年に向けた新たなビジョンづくりに着手しました。職員が誇りをもち、協会に長く勤め続けることができるよう、これからも魅力ある法人づくり、職場づくりに取り組んでまいります。勤続表彰の皆さまには、より一層、ご健勝でご活躍されることをお祈りいたします。

勤続 20 年出席者 (集合写真左から)

草野 祐輔さん (ナイトケアセンター南)

中野 泉さん (人材マネジメント室)

谷内 裕樹さん (高齢者福祉施設小川)

田中 恵子さん (山科事務所)

山内 ゆかりさん (朱雀事務所)



ヘルパーや職員の皆さんに支えられてやってこられた 20 年だった。
わたし自身も人を支える人物になっていきたい。

20 年を振り返り、ひとりではなし得なかったという月日を思いかえす場面も。

見たい！

知りたい！

聞いてみたい！

勤続表彰者のワークスタイルをインタビュー！
各専門職ならではの魅力や仕事を続けていく原動力など、リアルな現場の姿をお届けします！

藤山千歩子さん【錦林児童館】主任児童厚生員

2014年4月 新卒で入職。
大学時代（教育学部）から多くの子どもたちと接する中で子どもに関わる仕事に就きたいと感じていた。様々な年齢の子どもと多角的に関わり、成長の過程を近くで見守り応援できることに、やりがいを感じる。また、保護者や子どもと、じっくり関係性を築ける素晴らしさがある。



大切にしていること

話す力と聞く力。ご利用者や地域の方々とのコミュニケーションはもちろん、ボランティアスタッフへの声掛けや共に働く職員間での意思疎通も大切。

中学生スタッフとの
振りかえりも行います



高校生スタッフとの
振りかえりも行います



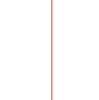
【開館】 中高校生ボランティアスタッフとプログラムの準備



【乳幼児親子プログラム開始】
・パンダうさぎコアラ
・水遊び



【お昼休憩】
学童の昼食見守りのあとに休憩



【自由来館/
子どものクラブ活動】
高校生スタッフが教える
子どもダンスクラブ



【小学生送り出し】
学童クラブ児童お迎え対応
中高生対応
事務作業、館内清掃、施設点検



【閉館/退勤】
大忙しの日が終わる

岡本武志さん【高齢者福祉施設小川】生活相談員

2019年 大学時代（社会福祉科）に協会で実習・アルバイトを経験し、生まれ育った地域に根付いた施設で働きたいとの思いもありケアワーカーとして入職。3年ほどして、在宅支援の生活相談員に異動。施設の中で実際に介護をする経験と、外に出て地域福祉に触れる経験は、社会福祉の奥深さを知ることのできる良い経験となっている。



大切にしていること

「自信を持ち過ぎない」こと。「慣れ」によってミスを引き起こさないよう、丁寧さや初心を忘れないよう心がけている。



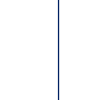
【朝礼/メールチェック】
・各階からの共有事項を確認
・重要事項の共有 など



【ご利用者入所対応】
体調や不安を感じていることなどを伺い、入所フロアへご案内



【お昼休憩】



【業務処理、会議、契約等】
日々の業務処理や会議は午後の開催が多い



【ご利用者退所対応】
退所されるご利用者を自宅までお送りすることも



【業務終了/退勤】
家に帰れば1歳児の子どもたちの成長も元気の源に



特養ご利用者の
通院に付き添うことも



山本晃子さん【朱雀事務所】短時間在宅介護員

2013年 パートヘルパーとして入職。その後32時間契約ヘルパーを経て、2019年 短時間在宅介護員（週35時間勤務）に転身。ヘルパーから頼られる側になり、重度の介護を任されることが増えたことで、「責任感」の感覚が変化し、介護スキルも向上。ひとりだったら続かなかった。職場の仲間感謝している。



大切にしていること

明るい笑顔でいること。ご利用者に対してお節介（やりすぎ）にならないこと。でも、必要なことは強く働きかける。



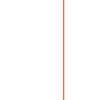
【直出訪問】
親子でご利用中のお宅に訪問
この日は娘さまの支援



【事務所でチームミーティング】
ご利用者やヘルパーの情報共有、課題検討、経過記録などの事務業務



【お昼休憩】



【訪問4件】
ご利用者宅～ご利用者宅へ訪問
急なお休みヘルパーの代理訪問も



【訪問先から直接帰宅】
愛犬との時間が癒し

ヘルパーの採用にも
力を注いでいます



山本さん制作の看板

第2弾は
今回取材の
ご利用者と
共同制作を予定しています！



【ご利用者からメッセージ】

私の生活は、ヘルパーさんなしでは考えられません。明るく優しい皆さんに元気をもらっています。今では何曜日の何時に誰が来るのかを覚えていて、楽しみに待っています。



下坂厚の写真日記 16

記憶とつなぐ

Instagram は QR コードを scan



メ～ メ～ と元気なヤギが迎えてくれる。
 こちらは京都府船井郡京丹波町にある『田舎 Pizza おピザはん』という日曜日だけ営業しているお店です。
 美味しいピザや、おばあちゃんのおばんざい、デザートが楽しめます。
 同じ敷地の中にデイサービス『くろめさん』があり、どちらも株式会社ひだまり介護が運営しています。
 くろめさんが大事にされている事
 " 起こすのは身体じゃなくて心 "
 お世話するだけの介護、リハビリやレクリエーションに終始する介護をやめる。
 介護技術やデイのイベント等の動画を YouTube や Instagram にもあげられているので、是非ご視聴ください。

なんとも力強く書かれた『共に生きる』という言葉

7 月に山口県萩市へ講演に行かせていただいた時に、講演会場の萩市総合福祉センターに飾られていた金澤翔子さんの作品です。
 翔子さんは、生まれてすぐダウン症と診断され、5 歳の時から書家であるお母さんに師事し、書道をはじめられました。

この『共に生きる』という言葉は、東日本大震災の時に翔子さんがテレビで被災地に降る雪を見て、すぐに毛布を届けたいと思われた気持ちを書に現したものだそうです。

災害への備えを

～災害対策 BCP 推進中～



今年の元日には能登半島で大地震が発生し大きな被害が出ました。

1995 年の阪神・淡路大震災以降、東日本大震災をはじめ、最大震度 6 弱以上の大地震が年に 1.5 回程度発生しており、**いつ、どこで大地震が発生してもおかしくない**状況になっています。

私たちが提供する福祉サービスは、サービスの停止により、ご利用者に大きな影響があることから、**災害発生時にも事業を継続**できるよう、拠点ごとに業務継続計画（BCP）を作成し、災害時の行動計画や役割分担を定め、備蓄品の準備等も進めています。

また、業務継続の要である職員の皆さまの安否を確認するため、**安否確認システム「オクレンジャー」**を導入し、**今秋**には全職員を対象に 2 回目の**通報訓練を予定**しています。安否確認システムへの登録を始め、皆さまのご協力をお願いいたします。

